

第4学年東組 社会科学習指導案

学習指導者 渡部 岳史

1 単元 「過疎の島はつながりを求めた ～企業の島からアートの島へ～」

2 単元について

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

直島の自然や文化、産業等について、時間的・空間的視野や立場を広げ、得た事象を相互に関係づけることで、多くの観光客が島を訪れる理由やアートの島を目指す取り組みの価値を捉え、地域がもつ特色を生かし、豊かに生活することについての解釈を再構成する。

交通の便が悪い島へ、多くの観光客が来ていることに興味をもち、それについての疑問を話し合っ解決する過程で、地域の発展に尽力したりそこで生活を営みながら協力したりしていることや携わる人々の思いや願いに気付き、世界から注目される直島の魅力を追究していく。

【学びに熱中する子どもの姿】

地方創生。政府の願いとは裏腹に、過疎化と高齢化の波は、以前より大きくなっている。そんな中、急激に過疎化が進む離島での取り組みが実を結びつつある。それが直島から広がるアートプロジェクトだ。香川県の特色の一つである瀬戸内海の多島美。これを地域の発展に生かしてきた直島の取り組みを調べていく。例えば、直島町の年表で時間的視野を広げ、観光客の入込数のグラフと関係づけると地中美術館の完成が観光客を増やしたことが分かる。また、直島のアート作品の分布図を利用し空間的視野を広げ、企業や役場の取り組みと関係づけると、企業から島民（身近な場所）へ、アートが広がったことが分かる。このような学習を積み上げていくことで、観光客が瀬戸内海の美しさと共にあるアート作品を求め島を訪れ、それらの人々を受け入れるために島民やボランティアの人たちが助け合い支え合っていることを捉えていく。そして、地域がもつ特色を生かし豊かに生活することは、地域が経済的に潤うだけではなく、人と人がつながり合っ生活していくことであると解釈を再構成していくのである。

実際に校外学習で直島に行き、多くの観光客に出会っている子どもたちは、「どうして交通の便が悪い島に多くの人に来てにぎわっているのだろう。」という問題をもつ。そして、「作品を見に来るためだ。」「でもアート作品なら都会の大きな美術館にはたくさんあるよ。」「世界中から集まってくるには他に理由があるはずだ。」等と次々に意見を出し「いつごろから多くの観光客が来始めたのだろう。」「それは年表を見たら地中美術館ができた頃だと分かるよ。」とさまざまな視点で探っていく。さらに、見つけてきた事象を捉え直すことで、「福武さんは芸術家とお年寄りがつながり自然豊かな直島を活気のある島にしたいと思っていたな。」「島民は芸術家に差し入れをしたり、観光客に道案内をしたりして島を発展させたいと協力している。」等と直島の発展に尽力したり、協力したりしている人々の思いや願いに気付き、直島全体がもつ魅力を追究していくのである。これが学びに熱中する姿である。

(2) 二つの場を位置づけた単元構成について

多くの観光客が来る理由を追究するには、直島に関する知識が必要である。しかし、質問紙調査によると、調べ活動において、何に着目して調べたらよいか見通しがもてず、学習意欲が低下する子どもが半数以上いる。そこで、まず子どもたちに近い立場である観光客に着目させ、「いつ頃から観光客が増えたのか。」という課題を設定する。それを調べる中で地中美術館へ行き着き、「だれが設計したの。」「なぜ地中にあるの。」と問題を見いだすだろう。そして、建築家の安藤忠雄さんの業績を調べることで解決していく場を位置づける。その後、子どもたちは安藤さんと一緒に開発に従事した人にも目を向け、「なぜ福武聡一郎さんは安藤さんに頼んだの。」と関係する人物について新たな疑問をもつ。それを解決する時間を位置づけ、さらに開発者側から観光客を受け入れる島民側へ立場を転換することで、そこまでの過程で蓄積された知識を基にして、観光客が直島を訪れる理由を追究していける単元構成にする。

(3) 単元構成と学習意欲への働きかけ (総時数 12時間)

次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ
第 一 次	<p>①</p> <p>直島に遠足に行ったときは、たくさんの観光客が来ていたな。</p> <p>どこから来ているの。 いつから来ているの。 何人ぐらい来ているの。</p> <p>世界中から来ている。</p> <p>直島の観光客はいつ頃から多くなったのかな</p> <p>地中美術館が出来た頃から増えて、今は30万人を超えているよ。</p> <p>安藤さんが美術館を造ったんだ。 福武さんと三宅さんが頼んだんだ。</p> <p>②</p> <p>地中美術館は地面の中に埋まって、外からはあまり見えないね。</p> <p>なぜ安藤さんは美術館を地中に埋めたのだろう</p> <p>瀬戸内海の美しい景色を楽しんでもらうためだったんだな。</p> <p>③④</p> <p>福武さんや三宅さんは地中美術館以外にも多くの施設を造っているよ。</p> <p>なぜ福武さんと三宅さんは直島に美術館やホテルを造ったのだろう</p> <p>自然を生かした観光で人口が減った島を盛り上げようとしたんだな。</p> <p>⑤⑥</p> <p>ベネッセエリア以外にもアート作品はいろいろなところにあったよ</p> <p>なぜ外に作品が飾られているの。 なぜ人が住んでいる場所にもあるの。</p> <p>なぜアート作品は島の人々が住んでいるところへ広がったのだろう</p> <p>取り壊す家等を再利用したり、芸術家と島の人たちが一緒に作品作りをしたりするからだな。</p> <p>⑦</p> <p>なぜアート作品の多くが外に飾られているのだろう</p> <p>瀬戸内海と作品と一緒に見えるからいいんだな。これは都会の美術館では見られない直島ならではのよさだ。だから30万人も来るんだな。</p> <p>⑧⑨ 本時 (9/12)</p> <p>人口が少ないのにどうやって30万人もの人を受け入れているの</p> <p>直島では多くの観光客をどのようにして受け入れているだろう</p> <p>島民や企業、ボランティアが協力して受け入れているな。</p> <p>観光客を受け入れることで島民が困っていることはないのかな。</p> <p>なぜ直島の人たちは、多くの観光客を受け入れ続けるのだろう</p> <p>島の人たちは金もうけだけではなく、人と人のつながりを大事にして元気で笑顔いっぱいの島にするために観光客を受け入れているんだな。</p>	<p>①～⑫ 校外学習で経験したことが想起されやすいように、子どもたちが作成した「直島思い出アルバム」を掲示しておく【想起：関親しみやすさ】。</p> <p>①～⑫ 常に思いついた疑問を書き残せるようにハテナカードを机の上に置き、メモができるようにし、適宜全体に広める【表出：注知覚的喚起】。</p> <p>②～⑩ 授業中では調べきれないことや自分の疑問を解決するために自主学習を奨励する。調べた内容を掲示するスペースを設けたり、資料として配布したりして授業で活用する【自主学習の活用：満内発的な強化】。</p> <p>③～⑨ 中心人物の思いや願いに関心をもてるように「〇〇さんの夢カード」に学習して分かった思いや願いを書き込み掲示し、他の人物や取り組みとつながるように活用する【夢カード：関目的指向性】。</p> <p>④～⑩ 自分が得た知識の因果関係等が捉えにくい子どもがいる。そこで直島を核に、そこに携わる人々がどのように関係しているかが学習の進度に伴って明らかになっていく「協力体制シート」を活用する【協力体制シート：関目的指向性】。</p>
第 二 次	<p>⑩⑪⑫</p> <p>直島の取り組みが、瀬戸内国際芸術祭に広がっているよ。直島だけでなく多くの島々にたくさんの外国人が来ているのはどうしてなのかな。</p> <p>多くの外国人が瀬戸内国際芸術祭に来ているのはどうしてなのかな</p> <p>なぜ知っているの。 どうやって来ているの。 いつごろから。</p> <p>自然とアートを使った町おこしは、年々他の島々にも広がり、その魅力を知った外国人がさまざまな交通機関を使って来ているんだな。</p>	<p>— 評価規準 (第1次) —</p> <p>特色を生かし豊かに生活することが、経済的な理由だけでなく、人と人のつながりにもあると捉えられる。</p>

3 本時の学習指導

(1) 目標

これまで調べてきたアートの島を目指し活動してきた人々の思いや願いを、それぞれの立場で関係づけていくことで、多くの観光客を受け入れることは、単に経済的な面だけでなく、人と人とのつながりを求めている面があるということをつまえることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識																															
<p>・学習前の子どもの課題意識</p> <p>1 急激に増える観光客とマナーの悪い観光客がいる事実から学習課題をつくる。</p>	<p>多くの人々が協力して年間約30万人の観光客を受け入れていたけれど、島民たちが困っていることはないのかな。</p> <p>観光客の増加に伴ってマナーの悪い客も増えてきているんだな。直島の人たちはどうして受け入れ続けているのだろうか。</p>																															
<p>なぜ、直島の人たちは多くの観光客を受け入れ続けているのだろう</p>																																
<p>2 アートの島を目指し活動している人々の思いや願いから観光客を受け入れる理由を話し合う。</p> <p>【協力体制シート：関目的指向性】</p> <p>【夢カード：関目的指向性】</p> <p>3 県外や外国から参加するボランティアや島民の思いや願いから観光客を受け入れる理由をまとめる。</p> <p>【協力体制シート：関目的指向性】</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【企業】</th> <th style="width: 25%;">【お店】</th> <th style="width: 25%;">【行政】</th> <th style="width: 25%;">【島民】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術館にたくさん来てくれたらもうかるからだと思う。</td> <td>物がたくさん売れてお店が繁盛するから受け入れている。</td> <td>言葉が分からない人を案内することが多いから大変だな。</td> <td>静かに生活する方がいいと思う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観光客が来てくれないともうからないからもっと受け入れたい。</td> <td colspan="2">あんまりいいこともないみたいだから受け入れない方がいい。</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">商売をしてもうける以外に何か受け入れるよさはあるのかな。</td> </tr> <tr> <td>前の時間に、直島で働く人やお店を開く人が県外から移住していると習ったよ。もっと観光客が増えたら仕事が増え、直島から出て行く人も減るし移住者も増える。三宅元町長さんの人口減少を何とかしたいという気持ちがかんたのではないかな。</td> <td>お年寄りがボランティアガイドをしていたよ。自分が住み続けてきた直島の良さや芸術家の方と触れ合っ分かったことを観光客に伝えたいのではないかな。</td> <td>福武さんが考えていた「人と人がつながり、お年寄りが元気な町にしたい。」という願いが、島の人たちに広がっているな。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">多くの人たちが島を元気にしようと努力し、瀬戸内海の美しさやその中に造ったアート作品を見てほしいという気持ちがあるから、観光客のマナーが少し悪くても、もっと来てほしいと思っている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">直島に住む人々の人と人をつなぐ大切にした取り組みがどんどん広がっているから、県外や外国からの多くのボランティアの人たちが直島に来ているんだな。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">直島の人々は、ただもうかるという理由だけでなく、人と人がつながることを大切にしていることが分かったよ。</td> </tr> </tbody> </table>	【企業】	【お店】	【行政】	【島民】	美術館にたくさん来てくれたらもうかるからだと思う。	物がたくさん売れてお店が繁盛するから受け入れている。	言葉が分からない人を案内することが多いから大変だな。	静かに生活する方がいいと思う。	観光客が来てくれないともうからないからもっと受け入れたい。		あんまりいいこともないみたいだから受け入れない方がいい。		商売をしてもうける以外に何か受け入れるよさはあるのかな。				前の時間に、直島で働く人やお店を開く人が県外から移住していると習ったよ。もっと観光客が増えたら仕事が増え、直島から出て行く人も減るし移住者も増える。三宅元町長さんの人口減少を何とかしたいという気持ちがかんたのではないかな。	お年寄りがボランティアガイドをしていたよ。自分が住み続けてきた直島の良さや芸術家の方と触れ合っ分かったことを観光客に伝えたいのではないかな。	福武さんが考えていた「人と人がつながり、お年寄りが元気な町にしたい。」という願いが、島の人たちに広がっているな。	多くの人たちが島を元気にしようと努力し、瀬戸内海の美しさやその中に造ったアート作品を見てほしいという気持ちがあるから、観光客のマナーが少し悪くても、もっと来てほしいと思っている。				直島に住む人々の人と人をつなぐ大切にした取り組みがどんどん広がっているから、県外や外国からの多くのボランティアの人たちが直島に来ているんだな。				直島の人々は、ただもうかるという理由だけでなく、人と人がつながることを大切にしていることが分かったよ。			
【企業】	【お店】	【行政】	【島民】																													
美術館にたくさん来てくれたらもうかるからだと思う。	物がたくさん売れてお店が繁盛するから受け入れている。	言葉が分からない人を案内することが多いから大変だな。	静かに生活する方がいいと思う。																													
観光客が来てくれないともうからないからもっと受け入れたい。		あんまりいいこともないみたいだから受け入れない方がいい。																														
商売をしてもうける以外に何か受け入れるよさはあるのかな。																																
前の時間に、直島で働く人やお店を開く人が県外から移住していると習ったよ。もっと観光客が増えたら仕事が増え、直島から出て行く人も減るし移住者も増える。三宅元町長さんの人口減少を何とかしたいという気持ちがかんたのではないかな。	お年寄りがボランティアガイドをしていたよ。自分が住み続けてきた直島の良さや芸術家の方と触れ合っ分かったことを観光客に伝えたいのではないかな。	福武さんが考えていた「人と人がつながり、お年寄りが元気な町にしたい。」という願いが、島の人たちに広がっているな。																														
多くの人たちが島を元気にしようと努力し、瀬戸内海の美しさやその中に造ったアート作品を見てほしいという気持ちがあるから、観光客のマナーが少し悪くても、もっと来てほしいと思っている。																																
直島に住む人々の人と人をつなぐ大切にした取り組みがどんどん広がっているから、県外や外国からの多くのボランティアの人たちが直島に来ているんだな。																																
直島の人々は、ただもうかるという理由だけでなく、人と人がつながることを大切にしていることが分かったよ。																																

提案授業Ⅱ指導案
二日目

(3) 本時の詳細

前時までの子どもの意識

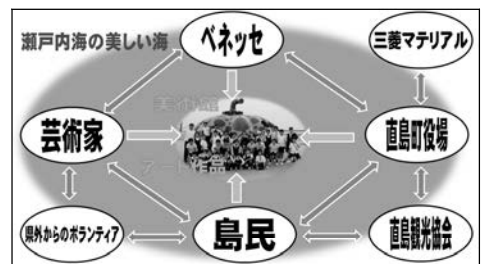
前時までには、直島が企業の島からアートの島へ変わってきていることを、建設された施設や開催された催し等とそれに携わった人々の思いや願いとをつないで理解している。そして、ベネッセ（企業）や町役場（行政）、観光協会を中心にした島の人々（島民）、県外からのボランティアが多くの観光客を受け入れてることを理解している。しかし「本当にこれで30万人も受け入れられるのかな。」「島民の人たちが困っていることはないのかな。」と観光客の受け入れに疑問をもつ子どもたちもいる。

学習活動1

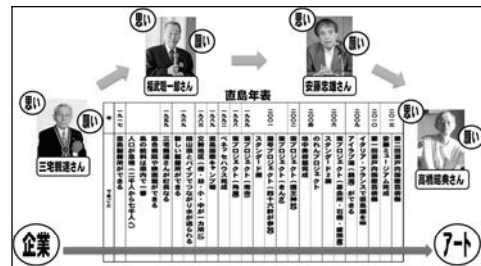
マナーの悪い観光客の写真を提示する。前時の疑問や経験とつないで「自分たちも迷惑になる行動をしてしまったな。」「毎日騒がれたら、島で生活したくなくなるんじゃないかな。」「年間30万にも来ていたら、島民はすごく困っていると思う。」等の意見が出てくるだろう。しかし、それでも観光客を受け入れ続けている直島の現状から、その理由は何かを考える学習課題を設定する。

学習活動2

すぐに考えられるのは、観光客を相手に仕事をしている人についてである。「ベネッセの人は美術館やホテルにたくさんの人が来たらもうかるからだと思う。」「カフェや民宿をしている人も同じでもうかるから続けている。」等の意見が出るだろう。ここで協力体制シートを活用し、「他の立場の人たちはどう思っているのだろうか。」と立場を広げて考える視点を与え、周囲の友達と話し合う場を設ける【協力体制シート】。出た意見をそれぞれの立場ごとに整理して板書していくが、「商売をしていない人は、うるさいだけで迷惑だ。」「そうだね。島民の相談を受ける役場の人も大変だな。」等、行政や島民の生活だけに目を向けて話し合うとマイナス面の意見に偏る。それらの意見に対して、これまで開発に取り組んだ人々や観光客の受け入れに努力した人々の思いや願いを書いた夢カードに意識を向けさせる【夢カード】。子どもたちは、これまでに積み上げてきたことやそこで努力してきた人々の思いや願いを踏まえ、それぞれの立場の意見を広い視野で考え直すだろう。例えば、「お店が繁盛したら、島の外へ出て行く人も減るし、もっと県外から移り住んで来る人も増えるのではないかな。」「芸術家と触れ合ったお年寄りはその経験を来たお客さんに伝え、自分たちの住む直島のことをもっと知ってもらいたいと思っているのではないかな。」等、メリットがないように思われた立場の人たちにもいいことがあることに気付いていくと考える。



【協力体制シート】



【夢カードと年表をつないだ資料】

子どもたちは、これまでに積み上げてきたことやそこで努力してきた人々の思いや願いを踏まえ、それぞれの立場の意見を広い視野で考え直すだろう。例えば、「お店が繁盛したら、島の外へ出て行く人も減るし、もっと県外から移り住んで来る人も増えるのではないかな。」「芸術家と触れ合ったお年寄りはその経験を来たお客さんに伝え、自分たちの住む直島のことをもっと知ってもらいたいと思っているのではないかな。」等、メリットがないように思われた立場の人たちにもいいことがあることに気付いていくと考える。

学習活動3

協力体制シートの協力関係と左下部分の県外からのボランティアの思いや願いについて考える【協力体制シート】。ここまでに子どもから意見が出ている場合はそれにつないで、出ていない場合はこちらからシートを活用して示す。島のお年寄りたちが人と人とのつながりを求めたのと同じように「県外からボランティアに来る人たちは島の人や芸術家の人と一緒に仕事がしたい、触れ合いたいという気持ちで来ている。」と考えるであろう。このようにして、観光客の受け入れによって単に経済的に潤うだけでなく人と人がつながり、日々の生活が豊かになる面があることを捉えていくのである。

(4) 総括的評価

それぞれの立場の意見を関係づけ、多くの観光客を受け入れることは、単に経済的な面だけでなく、人と人をつながりを求めている面があるということをつまえることができる。

<例> 商売でお金をもうけるだけでなく、島のお年寄りやボランティアの方々が人と人とのつながりが大切だと考えているから観光客を受け入れている。 【方法：ノート】